

039 背痛（看病疲れ）

女性 七十六歳

主訴 半年前より背痛

現症 半年前より背痛。彼女は長年、脳梗塞を患っていたご主人を自宅で看病してきた。半年ほど前から背中痛みを覚える。看病でご主人をかかえたり、支えたりでかなり無理を重ねていた。それが小柄な彼女の身体にこたえていたようだ。

所見 脊柱は「左に側彎」、腹部は「左天枢部」に多少こりがあり、脈は「細」。火穴は出していないが、「胸鎖乳突筋緊張」が強い。

処置 「骨盤虚血」、「丘墟・上四瀆」、「帯脈」各処置。

経過 3回目（13日目）来院されたとき、開口一番、「背中がだいぶん楽になった」という。脈を診ると「細」が広がっている。背中の強張りも前みたいにはない。その後「扁桃」、「丘墟・上四瀆」、「帯脈」をやっていく。

都合7回（1ヶ月あまり）来院されたが、3回目以降「細脈」はなく、背中痛みがなかったため、実質2回でよくなったようなものである。胸鎖乳突筋の緊張も最初よりはかなり緩んでいた。

（「筋緊張緩和処置（丘墟・上四瀆）」の解説→症例041）